

愛媛県IPM実践指標モデル(施設いちご)

	管理項目		管理ポイント	点数	チェック欄(注1)		
	対象	技術			昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備	病害	被害部の除去	炭疽病・萎黄病等による被害株は株ごと抜き取り、灰色かび病・うどんこ病等で発病した果実・茎葉部は切除し、圃場外で早期に適正処分する。	1			
	雑草対策	病害虫の伝染源の除去	ハダニ類やアザミウマ類等は雑草にも寄生し発生源となるので、圃場内や周辺の除草に努める。	1			
	病害虫	摘葉	下位葉を定期的に摘葉し、株の過繁茂を避け、病害虫が発生しにくい環境を作る。	1			
	病害	健全苗の育成	ウィルスフリー苗の導入又は無病圃から採苗する。	1			
	病害	炭疽病対策	雨よけ栽培、底面給水を行う。	1			
	病害	健全苗の定植	健全苗を定植する(上記3点を満たした苗の場合は3点)。	1			
	病害	湿度管理	排水や、換気等により適切な湿度管理する。	1			
	病害	適正な栽植密度	品種・栽培様式に応じた適正な栽植密度とする。	1			
	共通	適正施肥	県施肥基準に基づき窒素過多、肥切れとならないように適正な肥培管理を行う。	1			
防除ミングの及判断タイ		病害虫発生予察情報等の確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報や農林水産研究所の発表する農業技術情報等を入手し、病害虫の発生状況や天候に応じた技術情報等を確認する。	1			
		病害虫の発生状況の把握	黄色粘着トラップ、フェロモントラップ等を利用するとともに、圃場観察を丁寧に行い発生状況を確認する。(注2)	1			
生物的防除	病害虫	天敵等の利用	天敵製剤や微生物農薬を適切に利用する。	1			
		選択性農薬の使用	農薬を散布する場合は天敵に影響の少ない剤を選択する。(注3)	1			
物理的防除	害虫	防虫ネット	施設開口部には防虫ネットを設置する。(注4)	1			
	病害虫	栽培終了時の処理	栽培終了時には病害虫の拡散を防止するため、ハウスを締め切り、病害虫を死滅させる。(注5)	1			

化学的防除	農薬の使用全般	適正な散布方法、量の選択	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる適切な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1			
		農薬飛散防止対策	農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。	1			
		薬剤抵抗性発達遅延策	作用機作の異なる農薬をローテーションで使用する。さらに、当該地域で強い薬剤抵抗性の発達が確認されていない農薬を使用する。	1			
	害虫	定植時植穴粒剤の施用	必要と判断された病害虫のみを対象とする農薬を使用して、植穴処理を実施する。 ①当該地域での病害虫の発生状況 ②病害虫発生予察情報 ③当該圃場での前作の病害虫発生状況（注6）	1			
その他	作業日誌	作業日誌の記録	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1			
	研修会等への参加	研修会等への参加	研修会、栽培講習会等に参加し、最新の病害虫防除技術等を学ぶ。	1			
合計点数							
対象IPM計							
評価結果							

注1：チェック欄では、未実施の場合は0、農薬未使用等当該管理ポイントが当該農家にとってチェックの対象外であった場合は「－」と記す。

注2：黄色粘着トラップでは、コナジラミ類、ハモグリバエ類、アザミウマ類、天敵寄生蜂が捕獲できる。

注3：天敵に影響が少ないといわれる農薬でも、天敵群によっては影響を受ける場合がある。また、悪影響があっても残効性が短いため、天敵の活動への影響が少ないものもあるので、農薬の散布時期と特徴を考慮して剤を選定する。

なお、生物農薬の使用は天敵類の保護のみならず、薬剤抵抗性発達の遅延等にも有効であるが、防除効果は施用法や病害虫の発生量等の影響を受けやすいので、剤の特徴を十分把握して施用する。

注4：防除対象の害虫の大きさにより、資材の目合いを決定する。目合いと害虫の侵入防止効果の目安は以下の表の通りである。

目合い	コナジラミ類	ハモグリバエ類	アザミウマ類	アブラムシ類	キスジノミハムシ	鱗翅目（ハスモンヨトウ等）	（コナガ）
0.4mm	○	○	△	○	○	○	○
0.6mm	△	○	×	○	○	○	○
0.8mm	×	△	×	○	○	○	○
1mm	×	×	×	△	△	○	△
2mm	×	×	×	×	×	○	×
4mm	×	×	×	×	×	○	×

注) 侵入防止効果 ○:90%以上、△:70%以上、×:50%以下

注5：収穫終了後には株元を切断し、40℃以上で7日以上(できれば10日以上)施設を密閉して蒸し込み処理を行なう。

蒸し込み時の注意として、わずかな隙間から逃げ出すので密閉は夕方に行なうなどの工夫をする。

注6：粒剤は処理後1ヶ月程度天敵昆虫類に影響があるので、天敵放飼は防除指針などで確認する。